

第 2 1 期

(自・平成 2 4 年 4 月 1 日 至・平成 2 5 年 3 月 3 1 日)

# 事業報告書



財団法人 日本漢字能力検定協会

# 事業報告書 目次

	頁
<b>I. 法人の概要</b>	
1. 設立年月日	.. 2
2. 寄附行為に定める目的	.. 2
3. 寄附行為に定める事業内容	.. 2
4. 主務官庁に関する事項	.. 2
5. 事務所に関する状況	.. 2
6. 役員等に関する事項(平成 25 年 3 月 31 日現在)	.. 3
7. 職員に関する事項	.. 3
<b>II. 事業の概要</b>	
1. 検定事業	
(1)「日本漢字能力検定」の実施報告	.. 4
(2)「BJT ビジネス日本語能力テスト」の実施報告	.. 6
(3)「文章読解・作成能力検定」の試行実施報告	.. 8
2. 公益活動	
(1)漢字(日本語)学習支援活動	.. 8
(2)漢字文化振興活動	.. 11
(3)漢字文化普及・啓発活動	.. 12
3. 出版事業(収益事業)－特別会計－	.. 13
<b>III. 役員会等に関する事項</b>	.. 14
<b>IV. 業績状況と財産状態の推移</b>	.. 16
<b>V. 法人の課題</b>	.. 16
<b>VI. 株式保有の概要</b>	.. 16
<b>VII. 後発事象</b>	.. 16

# I. 法人の概要

## 1. 設立年月日

平成4年6月4日 設立

平成4年6月16日 登記

## 2. 寄附行為に定める目的

この法人は、日本人の日常生活に欠くことのできない漢字の能力を高め、広く漢字に対する尊重の念と認識を高めるため、漢字能力検定試験を行うとともに、漢字に関する講演会、講習会の開催、出版物の刊行及び調査研究、漢字能力を獲得する上で欠かせない日本語の検定試験等を行い、日本文化の発展に寄与するとともに、我が国における生涯学習の振興に寄与することを目的とする。

## 3. 寄附行為に定める事業内容

- ① 漢字に関する検定試験の実施、技能度の登録及びその証明書の発行
- ② 漢字に関する講演会、講習会等の実施
- ③ 漢字に関する調査研究
- ④ 漢字の学習に関する普及・啓発活動
- ⑤ 漢字に関する教育・学習及び調査研究等の活動への助成
- ⑥ 漢字に関する出版物の刊行
- ⑦ 漢字能力を獲得する上で欠かせない日本語の検定試験
- ⑧ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## 4. 主務官庁に関する事項

文部科学省 生涯学習政策局 生涯学習推進課

## 5. 事務所に関する状況

本 部: 〒600-8585

京都市下京区烏丸通松原下る五条烏丸町 398 番地

東京事務局: 〒100-0004

東京都千代田区大手町 2 丁目 1 番 1 号 大手町野村ビル 20 階

## 6. 役員等に関する事項 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

### 【役員(理事 10 名、監事 2 名)】

役職	氏名	常勤非常勤の別	現職
理事長	高坂 節三	常勤	
理事	有馬 頼底	非常勤	京都仏教会理事長、臨濟宗相国寺派管長
理事	池坊 保子	非常勤	前衆議院議員
理事	植田 耕治	常勤	
理事	大竹 靖夫	非常勤	元昭和図書株式会社社長
理事	長田 全	常勤	
理事	久保 浩史	常勤	
理事	堀場 雅夫	非常勤	株式会社堀場製作所最高顧問
理事	宮本 雄二	非常勤	宮本アジア研究所代表
理事	村田 純一	非常勤	村田機械株式会社代表取締役会長
理事	湯淺 栄人	非常勤	株式会社 GS ユアサ国際事業部企画本部企画部部長
監事	石川 良一	非常勤	弁護士
監事	堀村 不器雄	非常勤	公認会計士

### 【評議員 12 名】

役職	氏名	常勤非常勤の別	現職
評議員	阿辻 哲次	非常勤	京都大学大学院教授
評議員	新木 直人	非常勤	賀茂御祖神社(下鴨神社)宮司
評議員	池田 芳和	非常勤	全国連合小学校長会顧問、東京福祉大学教授
評議員	梅 溪 通明	非常勤	社団法人霞会館常務理事
評議員	梶山 千里	非常勤	公立大学法人福岡女子大学理事長・学長
評議員	小林 一仁	非常勤	桜美林大学名誉教授
評議員	近藤 勝重	非常勤	日本 CFO 協会副理事長
評議員	笹原 宏之	非常勤	早稲田大学教授
評議員	壺内 明	非常勤	全日本中学校長会元会長、聖徳大学教授
評議員	戸谷 賢司	非常勤	独立行政法人大学入試センター参与、全国高等学校長協会顧問、秀明大学教授
評議員	森 博達	非常勤	京都産業大学教授
評議員	山本 真吾	非常勤	白百合女子大学教授

## 7. 職員に関する事項(平成 25 年 3 月 31 日現在)

事務局職員数は、男性 36 人、女性 71 人、計 107 人。(嘱託、契約等を除く)

職員数	平均年齢	平均勤続年数
男性 36 人	37.2 歳	約 5 年 10 月
女性 71 人	31.4 歳	約 5 年 3 月
合計 107 人	33.4 歳	約 5 年 5 月

## II. 事業の概要

日本文化の発展、生涯学習の振興に寄与するため、検定事業として、「日本漢字能力検定 1 級～10 級」ならびに「BJTビジネス日本語能力テスト」を実施するとともに、漢字・日本語学習支援活動、漢字文化振興活動、漢字文化普及・啓発活動を実施した。また、収益事業として参考書、問題集等の出版物を刊行した。

### 1. 検定事業

#### (1)「日本漢字能力検定」の実施報告

##### ①実施日

本年度は以下の 13 日程で日本漢字能力検定を実施した。

回	公開会場日程	対象級	準会場日程	対象級
第 1 回	平成 24 年 6 月 17 日(日)	1～10 級	平成 24 年 6 月 2 日(土)	2～10 級
			平成 24 年 6 月 15 日(金)	2～10 級
			平成 24 年 6 月 17 日(日)	2～10 級
			平成 24 年 7 月 13 日(金)	2～10 級
第 2 回	平成 24 年 10 月 28 日(日)	1～10 級	平成 24 年 8 月 24 日(金)	2～10 級
			平成 24 年 10 月 19 日(金)	2～10 級
			平成 24 年 10 月 28 日(日)	2～10 級
			平成 24 年 11 月 2 日(金)	2～10 級
			平成 24 年 11 月 10 日(土)	2～10 級
第 3 回	平成 25 年 2 月 3 日(日)	1～10 級	平成 25 年 1 月 25 日(金)	2～10 級
			平成 25 年 2 月 1 日(金)	2～10 級
			平成 25 年 2 月 3 日(日)	2～10 級
			平成 25 年 2 月 9 日(土)	2～10 級

##### ②会場数結果

本年度は、以下の会場で日本漢字能力検定を実施した。

	第 1 回	第 2 回	第 3 回	計
公開会場	176	167	163	506
準会場	13,063	17,491	13,174	43,728
合計	13,239	17,658	13,337	44,234

##### ③漢検 CBT(Computer Based Testing)

通常の年 3 回 13 日程の検定日に限定せず、より多くの受検機会を設けることを目的として、コンピューターを利用した漢検 CBT を実施した。液晶タブレット対応に改良し、受検者の利便性の向上を図った。

	会場数	志願者数
公開会場	27	15,662
準会場	93	894
合計	120	16,556



##### ④検定料

受検者や団体の担当者から寄せられた要望をもとに、5 級から 10 級(小学校相当級)の検定料を引き下げた。

1 級:4,500 円 準 1 級:4,000 円 2 級:3,500 円 準 2 級・3 級・4 級:1,800 円  
5 級・6 級・7 級:1,500 円 8 級・9 級・10 級:1,000 円

### ⑤回数・級別志願者数

平成 24 年度日本漢字能力検定の志願者数は、2,261,539 人であった。

回・級ごとの内訳は以下のとおりである。

#### 平成 24 年度 総計

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	5,250	19,999	232,034	390,729	614,922	329,410	230,603	109,921	98,483	92,715	76,190	61,283	2,261,539
受検者数	4,549	17,395	219,497	375,598	591,969	316,254	221,295	105,633	94,761	88,362	72,945	57,961	2,166,219
合格者数	490	2,142	51,194	131,146	268,696	155,440	160,942	83,315	82,305	73,799	66,142	55,241	1,130,852
合格率(%)	10.8%	12.3%	23.3%	34.9%	45.4%	49.2%	72.7%	78.9%	86.9%	83.5%	90.7%	95.3%	

#### 平成 24 年度第 1 回

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	1,808	6,793	82,383	131,118	188,957	96,708	80,690	29,566	25,011	23,551	18,690	15,514	700,789
受検者数	1,602	6,055	78,580	126,730	183,153	93,980	78,051	28,593	24,164	22,633	18,122	14,934	676,597
合格者数	113	228	19,265	43,147	81,547	43,694	57,248	22,261	21,174	18,622	16,128	14,329	337,756
合格率(%)	7.1%	3.8%	24.5%	34.0%	44.5%	46.5%	73.3%	77.9%	87.6%	82.3%	89.0%	95.9%	

#### 平成 24 年度第 2 回

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	1,717	6,397	72,606	139,055	252,756	131,924	76,484	34,244	29,628	26,892	21,361	16,265	809,329
受検者数	1,479	5,537	68,735	134,530	245,118	127,127	73,524	32,975	28,576	25,516	20,356	15,157	778,630
合格者数	227	1,086	15,608	47,355	113,470	62,821	51,300	24,909	24,282	20,736	18,192	14,263	394,249
合格率(%)	15.3%	19.6%	22.7%	35.2%	46.3%	49.4%	69.8%	75.5%	85.0%	81.3%	89.4%	94.1%	

#### 平成 24 年度第 3 回

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	1,725	6,809	77,045	120,556	173,209	100,778	73,429	46,111	43,844	42,272	36,139	29,504	751,421
受検者数	1,468	5,803	72,182	114,338	163,698	95,147	69,720	44,065	42,021	40,213	34,467	27,870	710,992
合格者数	150	828	16,321	40,644	73,679	48,925	52,394	36,145	36,849	34,441	31,822	26,649	398,847
合格率(%)	10.2%	14.3%	22.6%	35.5%	45.0%	51.4%	75.1%	82.0%	87.7%	85.6%	92.3%	95.6%	

※志願者数には、当協会が判断した事由(天災地変など)により受検を次回実施日に繰り越し、もしくは検定料を返金した志願者を含む。

### ⑥「作問委員会」の開催

検定問題の作成のために以下の頻度で委員会を開催し、検定問題の品質向上・維持に努めた。

開催月	平成 24 年度第 2 回 検討会・審議会	平成 24 年度第 3 回 検討会・審議会	次年度作問規程 検討会	次年度第 1 回 検討会・審議会
平成 24 年 4 月	6 回			
平成 24 年 5 月	6 回			
平成 24 年 6 月	12 回			
平成 24 年 7 月	6 回	1 回		
平成 24 年 8 月		4 回		
平成 24 年 9 月		12 回		
平成 24 年 10 月		8 回		
平成 24 年 11 月				
平成 24 年 12 月			4 回	
平成 25 年 1 月				9 回
平成 25 年 2 月				10 回
平成 25 年 3 月				4 回

## ⑦検定の質向上の取り組み

### 1. 改定された「常用漢字表」への検定問題対応

新しい常用漢字表が告示されたことに伴い、審査基準を改定した。新しい審査基準に基づく検定を本年度から実施した。

### 2. 資格活用状況調査

#### 2-1. 教育機関

全国の大学、高等学校及び専修学校における「日本漢字能力検定」の活用状況を調査した。入学試験や学内での単位認定に「漢検」を活用している大学、高校、専修学校に関する有益な情報を学習者や指導者に提供することが目的である。調査結果はホームページ及び冊子にまとめて公開した。

#### <調査・結果概要>

##### ・大学入試における資格活用状況調査

調査対象: 大学(4年制) 741校、短期大学 342校、計 1,083校

「活用あり」と回答した校数: 大学 304校 772学部、短期大学 160校 295学科

##### ・高等学校入試における資格活用状況調査

調査対象: 全国の高等学校・高等専門学校 5,409校

「活用あり」と回答した校数: 2,183校

※北海道の道立高校、岩手県、宮城県、秋田県の一部、栃木県、埼玉県の一部、富山県、福井県、和歌山県(県立のみ)、高知県の公立高校は、各教育委員会との協議の結果、各校への調査は行っていない。

##### ・高等学校の単位認定における資格活用状況調査

調査対象: 全国の高等学校・高等専門学校 5,790校

「活用あり」と回答した校数: 368校

##### ・専修学校入試における資格活用状況調査

調査対象: 全国の専修学校 2,968校

「活用あり」と回答した校数: 278校

#### 2-2. 企業等

東証一部・二部、大証一部・二部上場企業 2,287社を対象に「日本漢字能力検定」の資格活用状況を調査した。444社が「漢検を評価・活用している」と回答した。またそのうち 407社で、新卒採用の場面で言語力はもちろんのこと、意欲や熱意を測る指標として「漢検」を活用していることがわかった。

## (2)「BJT ビジネス日本語能力テスト」の実施報告

### ①実施日

第 24 回〈平成 24 年度第 1 回〉平成 24 年 6 月 24 日(日)

第 25 回〈平成 24 年度第 2 回〉平成 24 年 11 月 18 日(日)

### ②実施地、申込者数、受験者数

#### 平成 24 年度 総計

	申込者数	受験者数
国内 6 都市	2,495 名	2,281 名
海外 17 都市	1,611 名	1,450 名
総計	4,106 名	3,731 名

## 内訳

### 第 24 回

	国名	開催都市	申込者数	受験者数
国内	日本	東京、名古屋、京都、大阪、福岡、大分	1,085	992
海外	中国	香港、北京、上海、広州、大連、青島、天津、瀋陽、南京、成都、重慶、吉林、杭州、蘇州、深圳	656	579
	タイ	バンコク	21	(*1)22
	小 計		677	601
合 計			1,762	1,593

\*1 バンコクの受験者数 22 名のうち 5 名は第 23 回からの繰越者(洪水のため救済措置)

### 第 25 回

	国名	開催都市	申込者数	受験者数
国内	日本	東京、名古屋、京都、大阪、福岡、大分	1,410	1,289
海外	中国	香港、北京、上海、広州、大連、青島、天津、瀋陽、南京、成都、重慶、吉林、杭州、蘇州、深圳	871	792
	アメリカ	ハワイ	12	10
	タイ	バンコク	51	47
	小 計		934	849
合 計			2,344	2,138

### ③「作問委員会」等の開催

試験問題の作成及び結果判定のために、次のような頻度で委員会会議を開催し、問題及び採点の品質向上・維持に努めた。

	編集会議	結果承認会議	妥当性検証会議
平成 24 年 4 月	6 回		
平成 24 年 5 月	5 回		
平成 24 年 6 月	5 回		
平成 24 年 7 月	5 回	1 回	
平成 24 年 8 月	5 回		
平成 24 年 9 月	4 回		
平成 24 年 10 月	4 回		
平成 24 年 11 月	6 回		1 回
平成 24 年 12 月	4 回	1 回	
平成 25 年 1 月	4 回		
平成 25 年 2 月	6 回		
平成 25 年 3 月	4 回		1 回

### ④個別テストおよび団体受験制度(I-BJT)の実施

文部科学省・経済産業省共催の「アジア人財資金構想」における留学生育成事業の実施団体に対し、個別テストを提供した。受験者数は 115 名であった。また、通常のテストと同様の 100 問 120 分の問題で、企業等の団体において任意の日時・場所で受験できるテスト(I-BJT)を開発し、提供した。5 団体、63 名が利用した。



### (3)「文章読解・作成能力検定」の試行実施報告

漢字学習の先にある、日本語文章を読み解き、作成する能力を育成するための「文章読解・作成能力検定」を開発し、問題の精度向上のための試行テストを無料で実施した。試行テストの受検者募集は、「漢検」実施校ならびに教育委員会等を通じて行った。

#### ・試行テストの概要

期 間：平成 24 年 7 月～平成 25 年 3 月

実 施 級：4 級、3 級、準 2 級、2 級

対 象：小学生、中学生、高校生、大学生、社会人

受検者数：4 級 7,617 名、3 級 7,957 名、準 2 級 2,613 名、2 級 233 名 計 18,420 名

## 2. 公益活動

### (1)漢字(日本語)学習支援活動

#### ①義務教育段階における要保護児童生徒への「日本漢字能力検定」の無償提供

経済的理由で漢字検定を受検する機会を得られない方を支援するため、義務教育課程の要保護児童生徒に対して、学校(小学校・中学校・中等教育学校・特別支援学校)や市区町村教育委員会を通じて、無償で受検機会を提供した。本年度の制度利用は、延べ 382 団体 967 名であった。

#### ②養護施設在籍者への「日本漢字能力検定」の無償提供

環境上養護を要する児童を支援するため、漢字検定の受検を希望する養護施設(厚生労働省の定める児童養護施設・児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の社会的養護施設)に対して、在籍児童生徒に無償で受検機会を提供した。本年度の制度利用は、児童養護施設等 延べ 140 団体 2,411 名、児童自立支援施設 延べ 85 団体 1,691 名であった。

#### ③東日本大震災被災者支援

被災地域の小・中学校への当協会発行書籍の寄贈及び震災の影響により自己負担による漢検受検が困難となった児童・生徒への受検機会の無償提供(延べ 300 団体 15,595 名)などの被災者教育支援を実施した。

#### ④漢字・日本語学習プログラムの開発

教員が児童生徒の学習指導時に配布活用できる漢字学習支援ツール＝「漢字学習プリント」小学 3 年生～中学 2 年生(6 学年分)向け Vol.9(平成 24 年 6 月)、Vol.10(平成 24 年 10 月)、Vol.11(平成 25 年 3 月)を開発し、都道府県・市区町村教育委員会(604 教委)との連携により、小学校・中学校に提供した。

#### ⑤学習支援セミナーの開催

漢字能力の確実な獲得や伸長を図るため、有用な指導法等の提案・情報提供を行う学習支援セミナーを開催した。

##### ・公開セミナー

日 時：平成 25 年 3 月 26 日(火) 18:20～20:15

場 所：東京ステーションコンファレンス(東京都千代田区)

対 象：小学校・中学校・高等学校の教員

参加者：122 名

内 容：第 1 部 「社会で求められる人材とは」

新日鉄住金エンジニアリング株式会社

総務部 人事室 シニアマネージャー 坂口慶樹 氏

第 2 部 「実践報告：生徒によるブックトーク」

慶應義塾普通部 教諭

慶應義塾大学教職課程センター 非常勤講師 鈴木淑博 氏

## ⑥漢字・日本語講座の開講

日本漢字能力検定 1 級・準 1 級合格者の内、一定の条件で当協会が認めた者を講師として全国各地に派遣。漢字学習・漢検受検のための講習会を実施し、2 級受検者の増加と合格率の向上を図った。派遣先は以下の 4 団体であった。

学習院生涯学習センター(東京都)、名古屋外国語大学(愛知県)、武庫川女子大学(兵庫県)、神戸女子大学(兵庫県)

## ⑦漢検生涯学習ネットワーク

日本漢字能力検定 1 級・準 1 級合格者に漢字や日本語についてより深く学ぶ機会を提供するため、漢検生涯学習ネットワークを組織している。本年度で会員数は約 6,500 名に達した。会員向けの通信を年 4 回発行(ホームページでも公開)し、研修会を年 3 回開催した。

「漢検生涯学習ネットワーク研修会」

### ・第 4 回研修会

日 時:6 月 26 日(日) 14:00~17:00

場 所:エルソーラ仙台

講 演:『漢語と方言』

小林 隆 氏(東北大学大学院文学研究科教授)

研究発表①『字源の解説』

浜名鉄雄 氏(福島県漢字同好会会員・漢検生涯学習ネットワーク会員)

参加者:34 名

### ・第 5 回研修会

日 時:9 月 22 日(土) 14:00~17:00

場 所:福岡センタービル

講 演:『漢字の祖形に込められた古代人の思考』

小原俊樹 氏(福岡教育大学美術教育講座<書道分野>教授)

参加者:46 名

### ・第 6 回研修会

日 時:12 月 15 日(土) 14:00~17:00

場 所:日本青年館(東京都新宿区)

講 演:『漢字の辞書の作り方~ことばの辞典と文字の辞典~』

円満字二郎 氏(編集者・ライター)

参加者:132 名

## ⑧漢字教育サポーター育成講座

漢検生涯学習ネットワーク会員の中から希望する方を対象に、漢字教育を支援する「漢字教育サポーター」を育成する講座を立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所と連携して開催し、本年度、第 1 期 115 名の修了者を輩出した。今後、修了者を学校現場等へ紹介し、漢字教育の支援活動を推進する。

第 2 期講座(\*)は Web を活用したビデオオンデマンド授業とし、全国の受講者を募集。178 名が受講している。

\*「第 2 期漢字教育サポーター育成講座」

立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所が主催する「漢字教育士」認定講座のカリキュラムに基づいた、Web でのビデオオンデマンド講座。1 年間で 4 科目、全 80 時間の講義の視聴と確認テストの合格により修了認定する。

## ⑨全国の漢字同好会への活動助成

日本漢字能力検定の上位級(1級・準1級)の合格者が主なリーダーとなって、日本語・漢字に興味のある人々を会員として募り、日本語・漢字の学習や漢検の対策学習等に励む漢字同好会がある。会報誌の発行や地域に開かれた勉強会の開催、広く一般を対象とした講演会・イベント等の活動、学校や地域公民館などへの学習ボランティア講師の派遣などを奨励し、地域の日本語・漢字学習の普及啓発・支援を担ってもらうために、同好会活動費の助成を行った。同好会会員の自己研鑽と自らの能力を適切に生かした地域貢献を支援することで、日本語・漢字の生涯学習の輪を広げる一助となった。より公正さを担保するため、助成対象団体の条件や助成対象活動などを精査し、新たな同好会結成にも積極的な支援を行うため、ホームページで公募し、各団体の活動内容を公表した。

## ⑩成績優秀者表彰

「日本漢字能力検定」において、漢字学習に取り組んでいる人の努力を賞し、励みとする目的で、3月28日(木)に成績優秀者表彰式を行った。受賞者の内訳は以下のとおりである。

平成24年度は、年間合格者より185名と5組の家族に各種個人賞を、団体受検の中から518団体に各種団体賞を授与した。

### 個人賞

◇日本漢字能力検定協会賞	1～10級	合計 36名
◇日本技能検定協会連合会会長賞	1～10級	合計 36名
◇優秀賞	1～10級	合計 36名
◇奨励賞	1～10級	合計 75名

### ◇特別賞

〈個人の部〉	級を問わず年間での最高齢合格者1名、 これまでの準1級の最年少合格の記録に並んだ者1名	合計 2名
〈家族の部〉		合計 5組

### 団体賞

◇最優秀団体賞	全 20 団体
◇優秀団体賞	全 94 団体
◇奨励賞	全 177 団体
◇特別賞	全 227 団体

## ⑪各種表彰制度

### ・「満点賞」

漢字能力をより確実に取得することを奨励するため、各級を満点で合格された方に、合格証書・合格証明書・検定結果通知に加えて「満点賞」の賞状を授与する制度を実施した。本年度の制度適用者数は24,537名であった。

### ・「家族受検表彰制度」

生涯学習の奨励と受検者の学習意欲向上を目的として、家族そろって合格した場合に、個別の合格証書に加えて、合格した家族全員の氏名が入った「家族合格表彰状」を授与する制度を実施した。本年度の制度適用数は9,218件であった。

### ・「団体内表彰制度」

受検者の学習意欲の向上を目的として、各団体が独自の基準で合格者を表彰できるよう、「表彰支援セット(賞状・楯・文具)」を制作し、2,869セットを希望した団体へ送付した。

## (2)漢字文化振興活動

### ①漢検漢字文化研究奨励賞

広く漢字文化に関わる分野における学術的研究、調査等のうち、将来一層優れた展開が期待され有望視される学術に対して、研究奨励賞を授け、その顕彰をするとともに、更なる研究の深化を奨励した。本年度は17点の論考が寄せられ、以下7名の論文に各賞を授与した。

各賞	受賞者(敬称略)	論文タイトル
最優秀賞	該当無し	
優 秀 賞	田中 郁也 京都大学大学院人間・環境学研究科 博士課程 単位取得退学	『声類』・『韻集』の五音分類について
優 秀 賞	澤崎 文 早稲田大学文学学術院文学研究科 博士後期課程3年	『万葉集』の訓字主体表記に見える二種の仮名 —表記環境による字母の違い—
佳 作	賈 智 九州大学大学院人文科学府 博士後期課程3年	『新訳華嚴経音義私記』における字様の利用について
佳 作	張 鈴 名古屋大学大学院文学研究科 博士後期課程3年	orient、東洋(とうよう)と東方(ドンファン) —orientという語の訳語から日中両国の自己のあり方を探る—
佳 作	富田 美乃里 大阪大学大学院文学研究科 修士課程2年	「盡頭」「盡處」考 —如何にして明治・大正期の小説に用いられるようになったのか—
佳 作	永澤 濟 東京大学大学院人文社会系研究科 助教	漢語「-な」型形容詞の伸張 —日本語への同化—
佳 作	山元 宣宏 宮崎大学教育文化学部 専任講師	書体の命名に込められた企図 —その成立と背景について—

### ②漢字・日本語教育研究助成制度

学校教育法に定められている各学校の教職員が行う漢字・日本語(国語)教育の実践的な研究活動及びこれらの教職員で主に構成される学会・研究会等の研究活動に対して、活動費の助成を行った。本年度は、以下5団体の教職員の研究活動を支援した。

#### A. 教育実践部門

団体名	代表者	研究テーマ
学校法人長崎日本大学学園	今井 慎一郎	iPad 及び Moodle システムの活用と実践による、漢字学習の意識・能力向上を目指して
早稲田大学 日本語教育研究センター	黒田 史彦	留学生による自律的な漢字学習を実現するための支援方法の開発と実践
別府大学	篠崎 大司	日本語上級文法 e ラーニングコンテンツの開発 —ブレンディッドラーニングモデルの構築に向けて—
コミュニカ学院	竹田 悦子	トピック共通で複数の日本語レベル及びビジネス知識レベルに対応したビジネス日本語教材の開発
愛和外語学院	深江 新太郎	ムスリムが地域社会で共生するために必要な日本語教育カリキュラムの開発

#### B. 活動費助成部門 該当なし

### (3)漢字文化普及・啓発活動

#### ①今年の漢字®

「今年の漢字」は、一年を振り返り世相を表現する漢字一字を考えることで、漢字の持つ奥深い意義を再認識していただきたいと考え、1995年から毎年実施している行事である。毎年年末に、全国からその年の世相を表す漢字一字を募集し、最も応募数の多かった漢字は12月12日の「漢字の日」にちなんで、「清水寺」(京都市)の森清範貫主に大きく揮毫していただき、発表している。本年は、応募総数258,912票のなかから「金」が9,156票(3.54%)を集めて1位となった。



#### ②漢字文化啓発イベントの開催

漢字に対する関心を深め、漢字が持つ奥深い意義を伝えるため、京都・清水寺の森貫主揮毫の「今年の漢字」を展示する漢字文化啓発イベントを国内の主要都市にて開催した。

・タワーでの展示会開催

##### 【京都タワー】

期 間:11月1日(木)~12月2日(日)

場 所:京都タワー展望室4階 (京都市下京区)

内 容:2007年~2011年の清水寺での発表風景写真、2011年「絆」の原寸大掛け軸を展示し、2012年の「今年の漢字」応募箱を設置した。

##### 【東京タワー】

期 間:11月1日(木)~11月30日(金)

場 所:東京タワーフットタウン2階 特設「今年の漢字」展示コーナー (東京都港区)

内 容:2009年~2011年の3文字の掛け軸と2012年の応募箱を設置した。

(応募箱は12月3日(月)まで設置)

##### 【名古屋テレビ塔】

期 間:11月1日(木)~11月21日(水)

場 所:名古屋テレビ塔 展望階(愛知県名古屋市)

内 容:2011年「絆」のパネル展示と2012年の応募箱を設置した。

(応募箱は12月3日(月)まで設置)

#### ③情報誌「漢検ジャーナル」の発行

漢字文化の振興に資する情報誌として、漢字にまつわる様々な記事を掲載した「漢検ジャーナル」を発行し、学習者・保護者・教員をはじめ、広く一般の方々に無料配布した。

「漢検ジャーナル Vol.6」(4月2日発行)

発行部数 187万部

「漢検ジャーナル Vol.7」(8月20日発行)

発行部数 120万部

「漢検ジャーナル Vol.8」(12月3日発行)

発行部数 120万部



#### ④教育イベントへの参加協力

・『朝小サマースクール』

朝日新聞社が主催する『朝小サマースクール』に協賛し、全国2か所 計3日間、親子向け漢字セミナーや漢検模擬試験を実施した。

【関東】

日 時:8月2日(木)、3日(金) 10:00~16:00(両日)

場 所:学習院女子大学(東京都新宿区)

対 象:小学生とその保護者(約1,800人が漢検のセミナー・模擬試験を体験)

【関西】

日 時:8月7日(火) 10:00~16:00

場 所:武庫川女子大学(兵庫県西宮市)

対 象:小学生とその保護者(約1,000人が漢検のセミナー・模擬試験を体験)

#### ⑤漢検 漢字資料館

当協会本部ビル 2階フロアを使用して、漢字への関心を高めることを目的に、広く一般の方々に無料で資料館を開放し、漢字・日本語に関する情報や漢字検定の情報等を提供している。

開館時間:月~金 10:00~17:00(最終入館 16:30)

休 館 日:土・日・祝日・年末年始

入 館 料:無料

<展示コーナー>

「今年の漢字®」特別展、「漢字の歴史」、「西安碑林博物館」、「日中四字熟語一コマ漫画」、「体験コーナー」、「漢字のある風景フォトコンテスト」等

### 3. 「出版事業」(収益事業)-特別会計-

#### (1) [平成24年度 書籍販売数]

・辞書(漢検四字熟語辞典、漢検漢字辞典)	8,952冊
・参考書(漢検要覧)	2,331冊
・完全征服(1級・準1級)	9,981冊
・問題集(漢字学習ステップ2~10級)	516,075冊
・過去問題集(1~10級)	309,329冊
・問題集(分野別問題集2~6級)	86,839冊
・問題集(10日間練習問題集2~6級)	33,593冊
・問題集(ハンディ漢字学習2~4級)	40,949冊
・問題集(ステージ2~6級)	26,791冊
・問題集(漢検漢字学習トレーニング3/準2/2級・5/4/3級)	25,227冊
・問題集(漢検ダイレクト2級~6級、ほか指導ポイントつき)	4,297冊
・問題集(BJT)	1,045冊
・その他 流通調整分	-1,112冊

合計 1,064,297冊

#### (2) 教材・参考書

本年度は、広く一般の人々に対し学習機会を提供する一環として、学校・塾向けでは新シリーズ『漢字学習プリント&ノート 漢検ダイレクト』(2~6級)、個人向けでは書き込みがしやすいように判型を大きくした『漢検 漢字学習ステップ ワイド版』(8~10級)をそれぞれ発刊し、教育現場や全国の書店を通じて提供した。

### Ⅲ. 役員会等に関する事項

開催日時	場 所	出欠状況	議 事	結果
臨時理事会 平成 24 年 4 月 27 日 15:00～17:00	当協会京都本部 6 階会議室	出席理事：10 名 委 任 状：0 名 欠席理事：1 名 出席監事：2 名 欠席監事：0 名	①被災地支援(平成 24 年度)について ②理事長の互選について ③検定運営業務再構築推進室 出向受け入れについて  報告事項 ①検定運営業務再構築プロジェクトの現状とシステム開発費用について	承認 承認 承認
臨時理事会 平成 24 年 5 月 25 日 15:00～17:07	当協会京都本部 6 階会議室	出席理事：7 名 委 任 状：4 名 欠席理事：0 名 出席監事：2 名 欠席監事：0 名	①理事会による最初の評議員候補者の推薦について  報告事項 ①新公益法人移行に関する進捗について	承認
定時評議員会 平成 24 年 6 月 13 日 14:00～15:30	当協会京都本部 6 階会議室	出席評議員：12 名 委 任 状：0 名 欠席評議員：0 名 出席監事：2 名 オブザーバー出席：5 名 (理事長・常勤理事・事務局長)	①平成 24 年度(21 期)収支予算の修正について ②平成 23 年度(20 期)事業報告書(案)について ③平成 23 年度(20 期)決算報告書(案)について ④公益財団法人移行に伴う『定款の変更(案)』について ⑤評議員会による最初の評議員候補者の推薦について  報告事項 ①新公益法人移行に関する進捗について	承認 承認 承認 承認
定時理事会 平成 24 年 6 月 22 日 15:00～17:55	当協会京都本部 6 階会議室	出席理事：8 名 委 任 状：2 名 欠席理事：1 名 出席監事：2 名 欠席監事：0 名	①「平成 24 年度(21 期)収支予算の修正」承認の件 ②「平成 23 年度(20 期)事業報告書(案)」承認の件 ③「平成 23 年度(20 期)決算報告書(案)」承認の件 ④「公益財団法人移行に伴う『定款の変更(案)』」承認の件 ⑤「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程(案)」承認の件 ⑥「公益財団法人への移行申請に伴う必要事項」承認の件 ⑦「本部事務所移転・漢字ミュージアム(現漢字資料館改組)建設計画及び手続」承認の件	承認 承認 承認 承認 承認 承認 条件付承認
臨時評議員会 平成 24 年 7 月 12 日 14:02～14:50	当協会京都本部 6 階会議室	出席評議員：8 名 委 任 状：4 名 欠席評議員：0 名 出席監事：2 名 オブザーバー出席：4 名 (理事長・常勤理事・事務局長)	①「本部事務所移転・漢字ミュージアム(現漢字資料館)改組」承認の件	承認
臨時理事会 平成 24 年 7 月 27 日 15:00～16:25	当協会京都本部 6 階会議室	出席理事：7 名 委 任 状：3 名 欠席理事：1 名 出席監事：2 名 欠席監事：0 名	①「旧版書籍廃棄(平成 24 年度分)」承認の件 ②「民事訴訟の対応」承認の件 ③「役員等への謝金支給に関する規程の改定」承認の件  報告事項 ①漢字文化研究所について ②最初の評議員選定委員会報告について ③漢字ミュージアム・本部事務所建設移転について	承認 承認 承認
臨時理事会 平成 24 年 8 月 31 日 15:03～17:03	当協会京都本部 6 階会議室	出席理事：9 名 委 任 状：0 名 欠席理事：2 名 出席監事：1 名 欠席監事：1 名	①「管理職人事および組織の廃止」承認の件 ②「『漢検 漢字の森』建設設備の施工業者」選定の件  報告事項 ①新・出版システム構築について ②平成 24 年度被災地支援状況について	承認 継続審議
臨時理事会 平成 24 年 9 月 7 日 15:07～17:12	当協会京都本部 6 階会議室	出席理事：8 名 委 任 状：2 名 欠席理事：1 名 出席監事：2 名 欠席監事：0 名	①「『漢検 漢字の森』建設設備の施工業者」選定の件	承認
臨時理事会 平成 24 年 9 月 28 日 15:00～16:03	当協会京都本部 6 階会議室	出席理事：8 名 委 任 状：3 名 欠席理事：0 名 出席監事：2 名 欠席監事：0 名	報告事項 ①新公益法人移行に関する進捗報告について ②平成 24 年 7 月現在収支見込および年度予想について	

開催日時	場 所	出欠状況	議 事	結果
臨時理事会 平成 24 年 10 月 26 日 15:00～16:55	当協会京都本部 6 階会議室	出席理事：8 名 委任状：3 名 欠 席：0 名 出席監事：2 名 欠席監事：0 名	①「平成 25 年度公益財団法人(申請中)協会ウェブサイト制作・サーバ構築開始」承認の件 ②「漢字の森整備計画(案)策定作業の契約書」承認の件  報告事項 ①漢字検定 平成 24 年度志願者数状況について ②常勤理事 担当部門の職務執行状況について	承認  承認
臨時理事会 平成 24 年 12 月 21 日 15:00～16:43	当協会京都本部 6 階会議室	出席理事：6 名 委任状：5 名 欠 席：0 名 出席監事：2 名 欠席監事：0 名	①「建設発注先への発注内示書」承認の件 ②「『情報セキュリティ基本方針』規程」承認の件  報告事項 ①訴訟の進行状況について ②漢検漢字の森建設設備計画の進捗について ③新公益法人移行の進捗について ④その他(基幹システム再構築の進捗について)	承認 条件付承認
臨時理事会 平成 25 年 1 月 25 日 15:00～17:01	当協会京都本部 6 階会議室	出席理事：8 名 委任状：3 名 欠 席：0 名 出席監事：2 名 欠席監事：0 名	①「経理規程の改定」承認の件 ②「倫理規程の改定」承認の件 ③「情報公開規程の改定」承認の件 ④「文書管理規程の改定」承認の件 ⑤「資金運用管理規程の改定」承認の件 ⑥「寄附金取扱規程の制定」承認の件 ⑦「評議員選定委員会運営規程の新規制定」承認の件 ⑧「内部通報制度運用規程の改定」承認の件 ⑨「訴訟(地位確認等請求事件)への対応」承認の件 ⑩「協会事務所移転に関する委員会設置」承認の件 ⑪「旧弥栄中跡地活用に関する京都市へのプロポーザル提案書(案)」承認の件  報告事項 ①次年度収支予算進捗について	条件付承認 条件付承認 承認 承認 承認 承認 再検討 再検討 承認 承認 条件付承認
定時評議員会 平成 25 年 2 月 13 日 11:00～12:03	当協会京都本部 6 階会議室	出席評議員：12 名 委任状：0 名 欠席評議員：0 名 出席監事：2 名 オブザーバー出席：5 名 (理事長・常勤理事・事務局長)	①「平成 25 年度事業計画書(案)」承認の件 ②「平成 25 年度『収支予算書』及び『資金調達及び設備投資の見込み』(案)」承認の件 ③「『倫理規程』改定」承認の件	条件付承認 承認  承認
定時理事会 平成 25 年 2 月 22 日 14:57～16:43	当協会京都本部 6 階会議室	出席理事：8 名 委任状：3 名 欠 席：0 名 出席監事：2 名 欠席監事：0 名	①「旧弥栄中跡地活用に関する京都市へのプロポーザル提案書(案)」承認の件 ②「平成 25 年度事業計画書(案)」承認の件 ③「平成 25 年度『収支予算書』及び『資金調達及び設備投資の見込み』(案)」承認の件 ④「『公印規程』の改定」承認の件 ⑤「『内部監査規程』の改定」承認の件 ⑥「『リスク管理規程』の改定」承認の件 ⑦「『常任理事会運営規程』の改定」承認の件 ⑧「『内部通報制度運用規程』の改定(修正案)」承認の件 ⑨「評議員選定委員会運営規程(修正案)」承認の件 ⑩「『就業規則』の改定」承認の件  報告事項 ①BJT 検定試験の自己評価シート作成・公開について ②平成 25-27 年度中期計画(概括案)について ③その他(訴訟の進行状況について)	承認  条件付承認 承認 承認 承認 承認 条件付承認 承認 承認 承認
臨時理事会 平成 25 年 3 月 28 日 10:00～11:20	ホテルグランヴィア京 都	出席理事：9 名 委任状：2 名 欠 席：0 名 出席監事：1 名 欠席監事：1 名	①「平成 25-27 年度中期計画」承認の件 ②「旧京都市弥栄中学校跡地活用に関する京都市との基本協定締結」承認の件 ③「特定資産の取り崩し」承認の件 ④「平成 25 年 4 月 1 日付人事組織図」承認の件 ⑤「『事務局組織規程』の新規制定」承認の件 ⑥「『理事の利益相反取引等に関する規程』の改定」承認の件 ⑦「『理事の就業規則』の改定」承認の件 ⑧「『リスク管理委員会規程』の新規制定」承認の件 ⑨「『取引管理規程』の新規制定」承認の件 ⑩「『責任権限規程』(基本・細則)の改定」承認の件  報告事項 ①訴訟について	承認 承認  承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認



## IV. 業績状況と財産状態の推移

(単位：千円)

	平成 20 年度 第 17 期 平成 21 年 3 月期	平成 21 年度 第 18 期 平成 22 年 3 月期	平成 22 年度 第 19 期 平成 23 年 3 月期	平成 23 年度 第 20 期 平成 24 年 3 月期	平成 24 年度 第 21 期 平成 25 年 3 月期
前期繰越収支差額	1,460,528	1,463,013	920,350	685,395	876,785
当期収入合計	8,179,634	5,819,950	6,629,907	6,089,753	5,469,155
当期支出合計	8,177,150	6,362,612	6,864,862	5,898,363	5,291,175
当期収支差額	2,484	▲542,662	▲234,955	191,390	177,979
次期繰越収支差額	1,463,013	920,350	685,395	876,785	1,054,765
当期正味財産増加額	▲12,577	▲44,368	788,147	223,644	▲82,872
資産合計	7,828,285	8,375,798	9,332,920	9,534,366	9,546,483
負債合計	488,222	1,080,103	1,249,078	1,226,881	1,321,870
正味財産	7,340,062	7,295,694	8,083,841	8,307,485	8,224,613

## V. 法人の課題

### (1) 公益財団法人への移行

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律(平成 18 年法律第 50 号)第 44 条の規定に基づき、内閣総理大臣より 3 月 21 日付で公益財団法人の認定を受け、3 月 25 日京都地方法務局へ移行登記申請を行った。

### (2) ガバナンス・内部統制体制について

法令遵守を徹底するため、各種規程に沿った組織運営を行い、その運営状況について、内部統制部門による内部監査を行った。また、公益財団法人への移行に向けて、定款や各種内部規程を、新たに適用される関係法令に準拠した内容に改定した。

### (3) 検定運営業務システムの確立について

公益法人として透明性の高い事業運営を支える観点から、基幹をなす検定運営業務システムの再構築に取り組んだ。情報の共有化・リアルタイム処理による業務効率の改善、IT プラットホームによる受検者の利便性の向上、経理システムとの連携強化による決算の早期化、個人情報セキュリティの強化等を実現した基幹システムが完成した。今後は、システムの効率的安定的な運営と定着を図る。

### (4) 民事訴訟他

元正副理事長 2 名及び関連 4 社との間で係争中の民事訴訟について、書籍の著作権をめぐる訴訟は、一審に引き続き二審の大阪高裁においても当協会の主張が認められ、協会勝訴が確定した。また、商標権をめぐる訴訟は、2 件のうち 1 件は大阪地裁における協会勝訴判決が確定し、残る 1 件は特許庁に続いて知財高裁においても協会の主張が認められた(相手方が最高裁へ上告中)。損害賠償を求める訴訟は京都地方裁判所で係属中である。引き続き司法の場での解決を図る。

## VI. 株式保有の概要

株式を保有していない。

## VII. 後発事象

決算日以降に生じた当協会の収支又は正味財産の状態に重要な影響を及ぼす事象はない。